

## 施策名：県民文化の創造

事業名	担当課・局・室名	ページ
県民芸術文化祭開催事業	文化スポーツ振興課	2 / 13
芸術文化基金事業	文化スポーツ振興課	3 / 13
別府アルゲリッチ音楽祭	文化スポーツ振興課	4 / 13
大分アジア彫刻展	文化スポーツ振興課	5 / 13
青少年舞台芸術鑑賞事業	文化スポーツ振興課	6 / 13
香りの文化振興事業	文化スポーツ振興課	7 / 13
地域の文化活動支援事業	文化スポーツ振興課	8 / 13
国東半島アートプロジェクト2012開催事業 (地域力創造芸術文化振興事業)	文化スポーツ振興課	9 / 13
県立美術館建設事業	県立美術館推進局	10 / 13
県庁舎等特設ギャラリー設置事業	文化課	11 / 13
おおいた県民美術鑑賞推進事業	文化課	12 / 13
まちなかアートギャラリー推進事業	文化課	13 / 13

事業名	大分県民芸術文化祭開催事業 (地域から文化力推進事業)	事業期間	平成 11 年度～平成 年度	上位の施策名	県民文化の創造
				担当課・局・室名	文化スポーツ振興課

[ 目的、現状・課題 ]

目的	対象	県民、文化団体	現状・課題	県民が広く文化についての理解と関心を深めるためには、文化活動に接する多くの機会が必要であるが、財政基盤が脆弱な文化団体単独では大分県民芸術文化祭のような大規模の文化イベントは実施できない。
	意図	芸術文化活動の発表の場と鑑賞の機会を図る		

[ 事業の実施状況 ]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト	22年度	23年度	24年度	25(予算)
芸術文化フェスティバル	・開幕行事、閉幕行事、県美展を開催(3行事) ・研修事業、ジャンル別文化行事、若者文化行事を開催(24行事)	間接補助	大分県民芸術文化祭 実行委員会	総コスト	28,000	28,000	24,266	27,812
				事業費	20,000	20,000	16,266	19,812
地域文化フェスティバル 参加行事	・地域文化行事を開催(6行事) ・文化団体による関連催事を後援(194行事) 全体総参加者数501,505人(うち主催行事参加者数25,557人)			うち一般財源	10,000	9,850	6,266	9,812
				うち繰越額				
				人件費	8,000	8,000	8,000	8,000
				職員数(人)	0.80	0.80	0.80	0.80

「うち一般財源」と「うち繰越額」は重複する場合がある。

[ 事業の成果等 ]

事業の成果	県内各地で開催された行事は200を超え、全体総参加者数は約50万人を数えた。芸術・伝統・生活など多様なジャンルの文化行事を開催し、県民に文化の発表・鑑賞機会を提供することにより、地域文化の活性化を図ることができた。	活動指標	指標名(単位)		事業の実績		最終目標	
			23年度	24年度	目標値	目標年度		
			補助対象のみの開催行事数(回)	33	33			

  

成果指標	指標名(単位)	達成度	22年度	23年度	24年度	25年度	最終達成(年度)	評価	備考
		目標値	180	180	180	180			
		実績値	223	205	227				
		達成率	123.9%	113.9%	126.1%				

[ 県が実施する必要性 ]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	NPOとの協働が可能	大分県文化振興条例	実行委員会事務局は17年度から移管した民間団体が運営主体となっているが、県民芸術文化祭は個々の文化団体の発表機会であるとともに、全ての県民が文化活動の発表と鑑賞の機会を等しく得るための事業であり、県民の芸術文化振興策として非常に有効な事業であるため、民間団体と協働しつつ引き続き県が支援していく必要がある。

[ 実施方法の効率性 ]

検証の視点	検証結果	24年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図っている(拡大困難)	・実行委員会事務局を民間団体(大分県芸術文化振興会議)に移管 ・各種助成制度や基金の積極的な活用	22年度	24年度	総コスト / 成果指標の実績値
			126 千円/回	107 千円/回	

[ 総合評価 ]

方向性	現状維持	方向性の判断理由	県民が広く文化について理解と関心を深めるためには事業の継続が必要のため
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種助成制度や大分県芸術文化基金を活用することにより、事業規模を維持する予定</li> <li>26年度は27年春の県立美術館開館を見据え事業内容を検討</li> </ul>		

事業名	芸術文化基金事業 (地域から文化力推進事業)	事業期間	昭和 60 年度～平成 年度	上位の施策名	県民文化の創造
				担当課・局・室名	文化スポーツ振興課

[ 目的、現状・課題 ]

目的	対象	県民、文化団体	現状・課題	文化団体は、財政基盤が脆弱で公的支援や協賛が得られなければ十分な活動が行えていない。そのため、文化団体と県が共同で積み立てた大分県芸術文化基金を活用して、NPO法人大分県芸術文化振興会議を通じて文化芸術活動を支援している。
	意図	文化芸術活動の振興を図る		

[ 事業の実施状況 ]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト	22年度	23年度	24年度	25(予算)
補助事業 芸術鑑賞事業(文化キャラバン) 文化芸術活動調査研究・情報発信 事業	文化活動実施団体への補助(43事業) 県内小中学校等での公演・展示事業(38会場) 大分県文化年鑑の発行やホームページによる情報発信 事業	間接補助	大分県芸術文化 振興会議	総コスト	12,621	12,621	12,621	17,085
				事業費	7,621	7,621	7,621	12,085
				うち一般財源				
				うち繰越額				
				人件費	5,000	5,000	5,000	5,000
職員数(人)	0.50	0.50	0.50	0.50				

「うち一般財源」と「うち繰越額」は重複する場合がある。

[ 事業の成果等 ]

事業の成果	NPO法人大分県芸術文化振興会議への補助を通して、県内の芸術文化団体による自主的な活動を支援し、芸術文化団体の幅広い連携を促進し、芸術文化の振興に寄与することができた。 ・団体会員 157団体、個人会員 150名 (平成24年度末現在)	活動指標	指標名(単位)		事業の実績		最終目標	
					23年度	24年度	目標値	目標年度
			文化キャラバン実施数(回)	39	38	30		
			補助事業数(件)	58	43	50		

  

成果指標	指標名(単位)	達成度	22年度	23年度	24年度	25年度	最終達成 (年度)	評価	備考
	文化キャラバン鑑賞者数(人)	目標値	7,000	7,000	7,000	7,000		達成	
		実績値	7,383	8,469	9,025				
		達成率	105.5%	121.0%	128.9%				

[ 県が実施する必要性 ]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	NPOとの協働が可能	大分県文化振興条例	文化団体と県が共同で積み立てた大分県芸術文化基金を活用して、NPO法人大分県芸術文化振興会議を通じて文化芸術活動を支援していることから、今後も県の関与が必要である。

[ 実施方法の効率性 ]

検証の視点	検証結果	24年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図っている (拡大困難)	・事業を民間団体(NPO法人大分県芸術文化振興会議)に移管	22年度	24年度	総コスト / 成果指標の実績値
			2	1	
			千円/人	千円/人	

[ 総合評価 ]

方向性	見直し(25年度)事業内容の拡充	方向性の判断理由	文化団体の活動を継続するためには引き続き支援が必要のため
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO法人大分県芸術文化振興会議とのより一層の連携</li> <li>・平成25年度は文化団体による学校訪問事業を拡充</li> </ul>		

事業名	別府アルゲリッチ音楽祭 (地域から文化力推進事業)	事業期間	平成 10 年度～平成 年度	上位の施策名	県民文化の創造
				担当課・局・室名	文化スポーツ振興課

[ 目的、現状・課題 ]

目的	対象	県民・県外者・県出身音楽家	現状・課題	世界的な高水準の音楽享受できる機会が少なく、機会がある場合も一部のクラシック音楽ファンに限られている。
	意図	県民が優れた芸術を享受できる機会を提供する		

[ 事業の実施状況 ]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト				
				22年度	23年度	24年度	25(予算)	
オーケストラ・コンサート マラソン・コンサート 県出身若手演奏家コンサート ピノキオコンサート	世界一流の指揮者とピアニストによるオーケストラ・コンサート 世界一流の演奏家による室内楽コンサート 県出身の若手演奏家によるコンサート 子どものための無料コンサート	負担金	アルゲリッチ 芸術振興財団	総コスト	38,000	38,000	38,000	48,000
				事業費	30,000	30,000	30,000	40,000
				うち一般財源	29,467	30,000	30,000	
				うち繰越額				
				人件費	8,000	8,000	8,000	8,000
職員数(人)	0.80	0.80	0.80	0.80				

「うち一般財源」と「うち繰越額」は重複する場合がある。

[ 事業の成果等 ]

事業の成果	巨匠マルタ・アルゲリッチを中心とする国際音楽祭を、別府市、大分市の主会場のほか県内各地域で開催することにより、県民に優れた芸術を享受する機会を提供するとともに、国内外に向けて最高レベルの芸術イベント開催地として情報を発信することができた。	活動指標	指標名(単位)		事業の実績		最終目標		
			23年度	24年度	目標値	目標年度			
			対象コンサート数(回)	4	4				
成果指標	指標名(単位)	達成度	22年度	23年度	24年度	25年度	最終達成(年度)	評価	備考
	総入場者数(人)	目標値	5,000	5,000	5,000	5,000		概ね達成	
		実績値	8,840	6,351	4,798				
		達成率	176.8%	127.0%	96.0%				

[ 県が実施する必要性 ]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	大分県文化振興条例	アルゲリッチ芸術振興財団が音楽祭の運営を主体的に行っているが、当音楽祭は、本県を代表する文化創造事業であり、県民に優れた芸術を享受する機会を提供するとともに、大分県の芸術文化を国内外に情報発信していくため、県のサポートが必要である。

[ 実施方法の効率性 ]

検証の視点	検証結果	24年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	一部図っている(拡大可能)	・公演ごとに実施するアンケートの結果を事業遂行に反映 ・サポート委員会の活用、ボランティア研修実施等によりボランティアとの協働を推進	22年度	24年度	総コスト / 成果指標の実績値
			4 千円/人	8 千円/人	

[ 総合評価 ]

方向性	見直し(25年度)事業内容の拡充	方向性の判断理由	県民の支持を広げ、ボランティアを充実することにより、別府アルゲリッチ音楽祭の自立を図る必要があるため
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽祭の運営主体であるアルゲリッチ芸術振興財団の体制強化を支援するとともに、幅広い県民の理解を得るため、子ども達や県民が本物の音楽に触れる機会となる「ピノキオ・コンサート」や「病院訪問」コンサート等の音楽を通じた社会貢献活動の一層の充実</li> <li>ボランティアとの協働を一層推進させ、音楽を通じた地域振興に取り組むとともに事務の効率化を推進</li> <li>来場者及び収入の増加に向けて、県内外への広報活動の充実</li> </ul>		

事業名	大分アジア彫刻展 (地域から文化力推進事業)	事業期間	平成 4 年度～平成 年度	上位の施策名	県民文化の創造
				担当課・局・室名	文化スポーツ振興課

[ 目的、現状・課題 ]

目的	対象	県民	現状・課題	日本やアジアにおける現代の多彩な芸術・文化に触れる機会が少ない。
	意図	国内外の優れた芸術・文化に触れる機会を有する		

[ 事業の実施状況 ]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト	22年度	23年度	24年度	25(予算)
大分アジア彫刻展(本展)	入賞作品展示(30点・1,534人来場)	負担金	大分アジア彫刻展 実行委員会	総コスト	13,225	9,000	12,055	8,900
おおいたこども彫刻展	県内の小・中・特別支援学校の生徒の作品展示(222点)			事業費	8,225	4,000	7,055	3,900
ジオサイト・ちょうこく・フェスティバル	自然の中に展示する野外彫刻コンクールの実施(21点)			うち一般財源				
受賞作家のその後展	過去受賞者の新作展覧会を本展と同時開催			うち繰越額				
ふれあいカーニバル	アジアの芸能・食文化に触れる機会を提供(約300人)			人件費	5,000	5,000	5,000	5,000
現代(いま)のかたち(紹介展)	過去の受賞作品の紹介展を県内で開催(44,425人)			職員数(人)	0.50	0.50	0.50	0.50

「うち一般財源」と「うち繰越額」は重複する場合がある。

[ 事業の成果等 ]

事業の成果	県民参加型のイベントの開催により、国際交流の場と自己表現・創造の機会を提供したほか、本展並びに「現代(いま)のかたち」では県民に優れた芸術作品の鑑賞の機会を提供した。	活動指標	指標名(単位)		事業の実績		最終目標		
					22年度	24年度	目標値	目標年度	
			こども彫刻展出品数(点)		632	222			
			紹介展開催数(回)		3	2			
成果指標	指標名(単位)	達成度	22年度	23年度	24年度	25年度	最終達成(年度)	評価	備考
	本展来場者数(人)	目標値	2,277		1,917			達成不十分	ピエンナーレ(隔年)方式をとるため、隔年で事業の成果を記載している。第10回(H22)は記念開催のため、第7回～第9回の平均値を基準とする。前回よりイベントの開催規模が縮小したことにより、広報が不足したと考えられる。
		実績値	2,669		1,534				
		達成率	117.2%		80.0%				

[ 県が実施する必要性 ]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	大分県文化振興条例	大分県出身の朝倉文夫を顕彰する大分アジア彫刻展を優れた芸術文化作品を鑑賞する契機として県民による文化創造の意欲を刺激し、また彫刻芸術を通じたアジア諸国との国際交流を推進するためには地元豊後大野市と連携(共催)して県が実施する必要がある。

[ 実施方法の効率性 ]

検証の視点	検証結果	24年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	一部図っている(拡大可能)	・実行委員会と市の任意団体等との共催によりイベントを共同実施 ・受賞作家のその後展：過去に受賞したアーティストへ委託し、企画展を開催	22年度	24年度	総コスト / 成果指標の実績値
			5 千円/人	8 千円/人	

[ 総合評価 ]

方向性	見直し(25年度)効率化の推進	方向性の判断理由	大分アジア彫刻展のPRを効果的かつ効率的に行い、次回の応募者数を増加させるため
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回応募者数を増やすため、アジア地域の芸術系大学や美術館と協力</li> <li>・幅広い世代へPRするため、引き続き過去受賞者の新作展覧会を実施</li> <li>・過去の受賞作品を大分県の文化情報ホームページ内のバーチャルミュージアムへ新たに掲載</li> <li>・26年度は27年春の県立美術館開館を見据え事業内容を検討</li> </ul>		

事業名	青少年舞台芸術鑑賞事業 (地域から文化力推進事業)	事業期間	平成 16 年度～平成 年度	上位の施策名	県民文化の創造
				担当課・局・室名	文化スポーツ振興課

[ 目的、現状・課題 ]

目的	対象	中学生、高校生	現状・課題	中学生、高校生が質の高い舞台公演及び美術展覧会に触れるきっかけが少なく、芸術文化に対する興味を引き出せていない。
	意図	芸術文化への興味を引き出す		

[ 事業の実施状況 ]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト	22年度	23年度	24年度	25(予算)
青少年舞台芸術鑑賞事業	学校を通じて、県内で行われる質の高い舞台公演及び美術展覧会の鑑賞希望者を募り、招待者を決定後、学校あてにチケットを送付 委託先：NPO法人大分県芸術文化振興会議	全部委託	県	総コスト	4,435	4,000	3,904	6,900
				事業費	3,435	3,000	2,904	5,900
				うち一般財源		3,000	2,404	
				うち繰越額				
				人件費	1,000	1,000	1,000	1,000
職員数(人)	0.10	0.10	0.10	0.10				

「うち一般財源」と「うち繰越額」は重複する場合がある。

[ 事業の成果等 ]

事業の成果	公演後のアンケート調査では、「胸が高鳴り涙があふれるほどのすばらしい演奏が聴けたのは私の人生における大切な宝物です」「歌舞伎の楽しさや面白さがわかった」「落語を生で見てこんなに面白いんだなと思いました」といった感想が寄せられ、子どもたちにとって、文化芸術に触れるきっかけとして充分機能している。					活動指標	指標名(単位)		事業の実績		最終目標	
	鑑賞した公演数(回)		23年度	24年度	目標値		目標年度					
		37		38								
成果指標	指標名(単位)	達成度	22年度	23年度	24年度	25年度	最終達成(年度)	評価	備考			
	鑑賞者数(人)	目標値	660	660	856	932						
		実績値	1,087	930	982							
		達成率	164.7%	140.9%	114.7%							

[ 県が実施する必要性 ]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	大分県文化振興条例	次代の文化の担い手となる子どもたちに対して文化的環境を整備することは県の役割であり、引き続き県が実施することが必要である。

[ 実施方法の効率性 ]

検証の視点	検証結果	24年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図っている(拡大困難)	平成20年度から事務を民間団体(NPO法人大分県芸術文化振興会議)に委託	22年度	24年度	総コスト / 成果指標の実績値
			4 千円/人	4 千円/人	

[ 総合評価 ]

方向性	現状維持	方向性の判断理由	中・高校生が鑑賞のきっかけを作るためには事業の継続が必要なため
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内全域の子どもたちが文化芸術に触れる契機となるよう、学校への周知を促進</li> <li>平成25年度から事務を民間団体(公益財団法人芸術文化スポーツ振興財団)に委託</li> </ul>		

事業名	香りの文化振興事業 (地域から文化力推進事業)	事業期間	平成 19 年度～平成 年度	上位の施策名	県民文化の創造
				担当課・局・室名	文化スポーツ振興課

[ 目的、現状・課題 ]

目的	対象	県民	現状・課題	国内有数のコレクションである県有財産が有効活用されておらず、古来から生活を豊かにしてきた香りの文化を身近に感じる機会が少ない。
	意図	香りの文化に親しむ機会を提供する		

[ 事業の実施状況 ]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト	22年度	23年度	24年度	25(予算)
香水づくりプチ体験事業	香水づくりの出張講座をおこない、県民に香水づくりの楽しさを体験してもらう事業(県内6か所、370名参加) 委託先：学校法人別府大学	全部委託	県	総コスト	5,159	4,659	5,180	4,060
著名人による情報発信事業	アンジェラ・アキトークショーの実施(入場者147名) 委託先：株式会社GAKUON 平成24年10月31日、大分香りの博物館			事業費	3,159	2,659	3,180	2,060
				うち一般財源		759	780	60
				うち繰越額				
				人件費	2,000	2,000	2,000	2,000
				職員数(人)	0.20	0.20	0.20	0.20

「うち一般財源」と「うち繰越額」は重複する場合がある。

[ 事業の成果等 ]

事業の成果	指標名(単位)	達成度	事業の実績				最終目標	
			23年度	24年度	目標値	目標年度		
香水づくりプチ体験や著名人によるトークショーの実施など積極的な情報発信を行ったことにより、入館者の増加につながった。	活動指標 香水作りプチ体験イベント実施回数(回)		6	6				

  

成果指標	指標名(単位)	達成度	22年度	23年度	24年度	25年度	最終達成(年度)	評価	備考	
	入館者数(人)	目標値		22,000	23,000	28,000	29,000		達成	
		実績値		27,300	27,643	28,981				
		達成率		124.1%	120.2%	103.5%				

[ 県が実施する必要性 ]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	なし	県の財産である旧香りの森博物館の収蔵品を貸付けて実施している事業であり、県有財産をうまく活用し、スムーズな博物館運営ができるように県が実施する必要がある。

[ 実施方法の効率性 ]

検証の視点	検証結果	24年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
			22年度	24年度	
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図っている(拡大困難)	・大分香りの博物館と連携し、事業を実施	189 円/人	179 円/人	総コスト / 成果指標の実績値

[ 総合評価 ]

方向性	現状維持	方向性の判断理由	県有財産を有効活用し、香りの文化に親しむ機会の場を提供していく必要があるため
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県の広報媒体を積極的に活用し、入館者増加を推進</li> <li>・26年度は自立経営の中で事業実施できないか検討</li> </ul>		

事業名	地域の文化活動支援事業 (地域から文化力推進事業)	事業期間	平成 20 年度～平成 年度	上位の施策名	県民文化の創造
				担当課・局・室名	文化スポーツ振興課

[ 目的、現状・課題 ]

目的	対象	児童、生徒及び県民	現状・課題	本美術展は全県下の児童及び生徒から約10万点の応募が寄せられる全国的にも類を見ない規模の美術展であり、本県の明日を担う子どもたちの豊かな感性と創造性を育み、文化振興を図る上で果たす役割は極めて大きい。
	意図	表現力を育み、絵画作品の鑑賞機会を提供する		

[ 事業の実施状況 ]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト	22年度	23年度	24年度	25(予算)
地域の文化活動支援事業	第30回高山辰雄賞ジュニア美術展の開催支援 開催期日：平成24年8月21日～8月26日 展示会場：大分県立芸術会館 応募数：100,420作品 入賞者数：推奨 1,000点、優賞11点、第30回記念賞11点 入場者数：6,510名	直接補助	高山辰雄賞ジュニア美術展実行委員会	総コスト	2,542	2,200	2,200	2,200
				事業費	1,542	1,200	1,200	1,200
				うち一般財源	1,542	1,200	1,200	1,200
				うち繰越額				
				人件費	1,000	1,000	1,000	1,000
				職員数(人)	0.10	0.10	0.10	0.10

「うち一般財源」と「うち繰越額」は重複する場合がある。

[ 事業の成果等 ]

事業の成果	保育園、幼稚園、小・中・高等学校、特別支援学校から約10万点の作品が応募されるなど、子どもたちの表現力や感性、創作意欲を伸ばすことに貢献するとともに、多くの県民に絵画の鑑賞機会を提供した。	活動指標	指標名(単位)		事業の実績		最終目標	
			23年度	24年度	目標値	目標年度		
			高山辰雄賞ジュニア美術展の開催回数(回)	1	1			

  

成果指標	指標名(単位)	達成度	22年度	23年度	24年度	25年度	最終達成(年度)	評価	備考
	応募作品数(作品)	目標値	100,000	100,000	100,000	98,000		達成	
		実績値	111,244	102,491	100,420				
		達成率	111.2%	102.5%	100.4%				

[ 県が実施する必要性 ]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	民間団体による実施が妥当	大分県文化振興条例	県内全域の幼稚園生から高校生までほぼ全ての子どもが参加している全国でも例のない事業であり、県の関与は必要である。

[ 実施方法の効率性 ]

検証の視点	検証結果	24年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図っている(拡大困難)	・美術芸術団体・新聞社・大分市等行政関係者で構成する実行委員会で実施	22年度	24年度	総コスト / 成果指標の実績値
			23 円/作品	22 円/作品	

[ 総合評価 ]

方向性	現状維持	方向性の判断理由	実行委員会が補助を受けずに単独で美術展を開催できる団体へ移行する方向性をつける必要があるため
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・23年度に補助金の上限額を1,500千円から20%減の1,200千円に見直し</li> <li>・26年度は27年春の県立美術館開館を見据え事業内容を検討</li> </ul>		



事業名	国東半島アートプロジェクト2012開催事業（地域力創造芸術文化振興事業）	事業期間	平成 24 年度～平成 26 年度	上位の施策名	県民文化の創造
				担当課・局・室名	文化スポーツ振興課

〔目的、現状・課題〕

目的	対象	県民	現状・課題	芸術文化は県民の活力ある地域社会の形成に寄与する重要な役割を果たすことが期待されているが、質の高い海外・国内のすぐれた芸術化に触れる機会が少ない。
	意図	国内外の優れた文化に触れる		

〔事業の実施状況〕

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト	22年度	23年度	24年度	25(予算)
国東半島アートプロジェクト2012	秋期事業 開催期間：平成24年11月3日～11月25日 国東市国見地区において空き家再生（2箇所）、バスツアー 春期事業 開催期間：平成25年 2月9日～ 3月17日 豊後高田市長崎鼻においてアートベンチ等を設置（13台）	直接補助	国東半島芸術祭協議会	総コスト			50,000	60,000
				事業費			40,000	40,000
				うち一般財源			20,000	20,000
				うち繰越額				
				人件費			10,000	20,000
				職員数(人)			1.00	2.00

「うち一般財源」と「うち繰越額」は重複する場合がある。

〔事業の成果等〕

事業の成果	国際的に活躍するアーティストによる作品展示や地域の新たな魅力を引き出すアートイベントの実施により、多種多様な文化芸術の鑑賞・体験の機会を創出し、芸術文化に対する機運を醸成することに繋がった。	活動指標	指標名(単位)		事業の実績		最終目標	
			23年度	24年度	目標値	目標年度		
			国東半島アートプロジェクトの開催回数(回)		1			

  

成果指標	指標名(単位)	達成度	22年度	23年度	24年度	25年度	最終達成(26年度)	評価	備考	
	鑑賞者数(人)	目標値				10,000	10,000	20,000	概ね達成	
		実績値				9,954				
		達成率				99.5%				

〔県が実施する必要性〕

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	NPOとの協働が可能	大分県文化振興条例	協議会事務局は県が主体となって運営しているが、国東半島アートプロジェクトは、県外からの来場者及び全ての県民が芸術文化の鑑賞機会を等しく得るための事業であり、芸術文化振興策として非常に有効な事業であるため、NPOや民間団体と協働しつつ引き続き県が支援していく必要がある。

〔実施方法の効率性〕

検証の視点	検証結果	24年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図っている(拡大困難)	<ul style="list-style-type: none"> <li>県・豊後高田市・国東市等行政関係者で構成する実行委員会で実施</li> <li>事業の一部をNPOと協働実施</li> <li>各種助成制度や基金の積極的な活用</li> </ul>	22年度	24年度	総コスト / 成果指標の実績値
				5 千円/人	

〔総合評価〕

方向性	見直し(25年度)事業内容の拡充	方向性の判断理由	より多くの県民が広く芸術文化について理解と関心を深めるため
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係市町村及びNPO法人BEPPU PROJECTとのより一層の連携</li> <li>県内外からの来場者増加を図るため、県の広報媒体やパブリシティを活用した積極的なPR</li> <li>26年度は27年春の県立美術館開館を見据え事業内容を検討</li> </ul>		

事業名	県立美術館建設事業	事業期間	平成 23 年度～平成 26 年度	上位の施策名	県民文化の創造
				担当課・局・室名	県立美術館推進局

[ 目的、現状・課題 ]

目的	対象	県民	現状・課題	県立美術館の整備については、進捗状況を県民に対して逐次情報提供し、県民の美術に対する興味関心を喚起するとともに、美術館が芸術文化の拠点として地域活性化やまちづくりに貢献していくことが求められている。
	意図	感性や創造性、文化を核とした地域力を高めるため、県立美術館を建設する		

[ 事業の実施状況 ]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト				
				22年度	23年度	24年度	25(予算)	
実施設計の委託 建設予定地の取得 美術館建設工事請負契約の締結 芸術文化ゾーン創造委員会の設置 まちなか支局の運営 プレイベントの実施	建築設計業務等委託の実施 委託先：(株)坂茂建築設計 大分銀行寿町社宅の土地及び建物を交換等により取得 本体工事、電気設備、空調設備等の契約を締結 芸術文化ゾーン創造委員会の開催(4回) 広報活動拠点として「県立美術館まちなか支局」を設置 高山辰雄生誕100年記念事業を実施	全部委託 直接実施 直接実施 直接実施 直接実施	県	総コスト		3,599,982	835,503	4,620,143
				事業費		3,509,982	745,503	4,530,143
				うち一般財源		12,220	22,817	32,569
				うち繰越額				159,772
				人件費		90,000	90,000	90,000
				職員数(人)		9.00	9.00	9.00

「うち一般財源」と「うち繰越額」は重複する場合がある。

[ 事業の成果等 ]

事業の成果	指標名(単位)	事業の実績		最終目標	
		23年度	24年度	目標値	目標年度
建設工事の実施設計業務が完了し、請負契約を締結した。また、まちなか支局における美術館の情報提供やワークショップ等を通じて、県民の美術に対する関心を高めるとともに、県内美術館や商店街等とのネットワーク構築を図った。	まちなか支局でのイベント回数(回)		31	30	24
	実施設計の完了(件)		1	1	24
	建設工事請負契約の締結(件)		5	5	24

  

成果指標	指標名(単位)	達成度	22年度	23年度	24年度	25年度	最終達成 (26年度)	評価	備考								
										目標値			2,200	3,600	4,300		
										実績値			3,157				達成
										達成率			143.5%				

[ 県が実施する必要性 ]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	なし	県立施設を設置する事業であり、県で対応する必要がある。

[ 実施方法の効率性 ]

検証の視点	検証結果	24年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
			22年度	24年度	
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図っている(拡大困難)	・全体事業費を常時見直し		265 千円/件	総コスト / 成果指標の実績値

[ 総合評価 ]

方向性	見直し(25年度)事業内容の変更	方向性の判断理由	県立美術館の開館に向けた計画に沿って事業内容が変わるため
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> <li>県民の方がより来館しやすいように、25年度よりまちなか支局の開館日及び運営時間を変更(現行：火～土の11:00～17:00 変更：水～日の11:30～18:30)</li> <li>芸術文化ゾーン創造委員会の答申を受けて、美術館を管理する指定管理制度の導入の検討や、県の芸術文化の中心拠点として、教育、産業、福祉、医療など様々な団体等との連携を推進</li> </ul>		

事業名	県庁舎等特設ギャラリー設置事業	事業期間	平成 22 年度～平成 年度	上位の施策名	県民文化の創造
				担当課・局・室名	教育庁 文化課

[ 目的、現状・課題 ]

目的	対象	芸術会館の収蔵作品	現状・課題	芸術会館は1,000点以上の洋画、彫刻、工芸作品を所蔵しているが、常設展示室がないため、恒常的に収蔵作品を展示・公開する機会が少ない。
	意図	積極的な活用で県民の鑑賞機会を拡大している		

[ 事業の実施状況 ]

活動名		活動内容	執行形態	事業主体	(単位：千円)				
					コスト	22年度	23年度	24年度	25(予算)
「芸術会館収蔵品特設ギャラリー」設置事業		大分県庁舎本館1階ロビー、大分県立図書館2階、大分県立病院1階中央待合ホールの各専用展示ケース内に、所蔵の洋画、彫刻、工芸作品2点を、会期を4期に分けて展示替えをして、通年展示	直接実施	県	総コスト	4,109	1,710	1,710	1,710
					事業費	2,909	710	710	710
					うち一般財源	2,909	710	710	710
					うち繰越額				
					人件費	1,200	1,000	1,000	1,000
職員数(人)	0.12	0.10	0.10	0.10					

「うち一般財源」と「うち繰越額」は重複する場合がある。

[ 事業の成果等 ]

事業の成果	年間利用者が県庁舎は不明であるが、大分県立図書館は約50万人、大分県立病院は約20万人いるため、多数の県民に身近な場所で美術品を鑑賞できる機会を提供すると同時に、収蔵品の活用機会の拡充が図られた。					活動指標	指標名(単位)		事業の実績		最終目標	
			23年度	24年度	目標値		目標年度					
		公開作品数(件)		25	24	24						
成果指標	指標名(単位)	達成度	22年度	23年度	24年度	25年度	最終達成(年度)	評価	達成	備考		
	公開作品数(件)	目標値	27	25	24	33	目標値の増減は公開する作品の大きさによるもの。25年度は従来の3カ所に加え、芸術会館での特別展のPRを目的に先哲史料館でも一時的に公開するため、増加している。					
		実績値	27	25	24							
		達成率	100.0%	100.0%	100.0%							

[ 県が実施する必要性 ]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	なし	芸術会館に常設展示室がない状況は変わらないため、引き続き収蔵品活用及び鑑賞機会の拡大を図る必要がある。

[ 実施方法の効率性 ]

検証の視点	検証結果	24年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図れない(見直し困難)	・県庁舎、大分県立図書館、大分県立病院との連携実施(H22～)	22年度	24年度	総コスト / 成果指標の実績値
			152 千円/件	71 千円/件	

[ 総合評価 ]

方向性	現状維持	方向性の判断理由	引き続き所蔵品の有効活用を図る必要があるため
改善計画等	・各開設施設の展示環境に適した公開作品を選定		

事業名	おおいた県民美術鑑賞推進事業	事業期間	平成 23 年度～平成 25 年度	上位の施策名	県民文化の創造
				担当課・局・室名	教育庁 文化課

[ 目的、現状・課題 ]

目的	対象	県民	現状・課題	県立美術館の開館に向けて、県民の機運醸成が必要だが県立美術館構想の内容や芸術会館の所蔵品のすばらしさが周知されていない。
	意図	県立美術館の開館に向け美術への関心が高まる		

[ 事業の実施状況 ]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト	22年度	23年度	24年度	25(予算)
企画検討運営委員会の開催	由布市(6名)杵築市(5名)から文化・商工・観光・福祉・行政関係者が参加し展示会の内容を検討	共同実施	県 実施市町村	総コスト		6,998	7,844	7,412
所蔵名品展の開催	由布市：9/15～10/2 18日間 クアージュゆふいん ほか 杵築市：10/10～10/21 12日間 きつき城下町資料館			事業費		3,998	4,844	4,412
関連イベントの実施	ギャラリー・トーク(学芸員、ボランティア) 造形ワークショップ(竹編み、裂き織り、モザイク等) 鑑賞授業			うち一般財源		3,998	4,844	4,412
				うち繰越額				
		人件費			3,000	3,000	3,000	
		職員数(人)			0.30	0.30	0.30	

「うち一般財源」と「うち繰越額」は重複する場合がある。

[ 事業の成果等 ]

事業の成果	「大正・昭和の懐かしき情景と大分の美術家」(由布市)と「きもの美人画と杵築の美術」(杵築市)とをそれぞれ開催し、あわせて76件の作品を展示。計1,936名の入場者を得た。関連イベントの参加者数は、のべ302名となった。展示会に対する満足度は、由布市94%、杵築市99%とともに非常に高く県外からの入場者も含め、幅広い層に新県立美術館をPRすることができた。	活動指標	指標名(単位)		事業の実績		最終目標	
					23年度	24年度	目標値	目標年度
			展示会入場者数(人)		3,296	1,936	2,300	25
			関連イベント参加者数(人)		374	302	420	25
		鑑賞授業参加者数(人)		323	595	420	25	

  

成果指標	指標名(単位)	達成度	22年度	23年度	24年度	25年度	最終達成(25年度)	評価	備考		
			目標値		3,400	2,100				2,300	2,300
			実績値		3,296	1,936					
			達成率		96.9%	92.2%					

概ね達成 目標値は開催する市の人口に応じて人口の3.2%の展示会入場者数を設定している。

[ 県が実施する必要性 ]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	なし	芸術会館の所蔵品および資料をベースとした事業であり、実施には、美術品に関する専門的な知識と経験を有する学芸員が不可欠。現在のところ他に代替可能な団体はない。

[ 実施方法の効率性 ]

検証の視点	検証結果	24年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	一部図っている(拡大可能)	・由布市において、サテライト会場を設けるなどして、回遊性のある展示を実施 ・由布市において、由布支援学校と地元商店街とのコラボ企画を促した ・杵築市において、地元郷土史研究会と連携した講座を実施	23年度	24年度	総コスト / 成果指標の実績値
			2,123 円/人	4,052 円/人	

[ 総合評価 ]

方向性	現状維持	方向性の判断理由	参加者の満足度が高く、継続して事業を実施する必要があるため
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施地域の既存事業との連携を強化</li> <li>・展示会の広報活動を強化</li> <li>・県立美術館推進局との連携を強化</li> <li>・地域ボランティアの育成、子どもたちの鑑賞機会の拡大</li> </ul>		

事業名	まちなかアートギャラリー推進事業	事業期間	平成 24 年度～平成 26 年度	上位の施策名	県民文化の創造
				担当課・局・室名	教育庁 文化課

[ 目的、現状・課題 ]

目的	対象	県民	現状・課題	県民が気軽に芸術を鑑賞できる、アートを楽しむことができるようなイベントが実施されていない。
	意図	アートに対する理解が深まる		

[ 事業の実施状況 ]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト	22年度	23年度	24年度	25(予算)
公募型アートイベント	県民や学生による絵画を商店街に展示する(30団体) 吹奏楽や書道パフォーマンス等を実施(15団体) 若手アーティストが企画する巨大紙相撲を実施 力士を作成するワークショップを開催(18団体) 委託先：大分まちなか倶楽部	全部委託	県	総コスト			6,628	6,783
アーティストイベント				事業費			5,628	5,783
				うち一般財源			5,628	5,783
				うち繰越額				
				人件費				1,000
	職員数(人)					1.00	1.00	

「うち一般財源」と「うち繰越額」は重複する場合がある。

[ 事業の成果等 ]

事業の成果	指標名(単位)	事業の実績		最終目標	
		23年度	24年度	目標値	目標年度
公募型アートイベントやアーティストイベントを通じて、多くの県民が気軽に芸術を鑑賞できる、アートを楽しめる場を提供することができた。	活動指標		63	70	26
	事業への参加団体数(団体)				

  

成果指標	指標名(単位)	達成度	22年度	23年度	24年度	25年度	最終達成(26年度)	評価	備考	
	事業への参加団体数(団体)	目標値				60	65	70	達成	絵画展示30団体・パフォーマンス15団体・ワークショップ18団体
		実績値				63				
		達成率				105.0%				

[ 県が実施する必要性 ]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	なし	県立美術館の動線となる中心部商店街でアートイベントを実施することで、県民や商店主の美術館に対する心の敷居を下げるのと同時に、アーティストと商店街を結びつける役割も担っていることから、県が主体となって気運醸成をおこなう必要がある。

[ 実施方法の効率性 ]

検証の視点	検証結果	24年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
			22年度	24年度	
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図っている(拡大困難)	・大分まちなか倶楽部への委託を実施		105 千円/団体	総コスト / 成果指標の実績値

[ 総合評価 ]

方向性	現状維持	方向性の判断理由	県立美術館の開館に向けて、継続的に気運醸成を図る必要があるため
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術館推進局と情報共有し連携を強化</li> <li>・芸術会館との相互利用や学芸員を活用できる形をとり、県民の芸術への関心を高めていくよう積極的な働きかけを実施</li> </ul>		